

# 栃木県立がんセンターの現状 IVRにおけるタイムアウト

---

栃木県立がんセンター 外来Ⅱ  
大和田 一美



# 栃木県立がんセンターのIVR

＜IVR件数＞  
約1700件/年  
(約10件/日)

＜1日のスタッフ＞  
IVR医師 1名  
放射線技師 2名  
看護師 2名

IVR室



# タイムアウトの定義

(手術医療の実践ガイドライン 第2章 より)

- タイムアウトとは、ある時点で一時全ての作業を中止し、今回の手術について確認する作業である。
- スポーツに於いては試合を一旦止め、これを利用してチームが集まり作戦を練る事をいう。
- 手術室では、関係者が全て集まり確認作業をすることである。これにより、手術室の事故防止を図る。

# 場面別タイムアウト

世界保健機関(WHO)  
外科手術時のガイドラインより

サインイン

- ・麻酔導入前

タイムアウト

- ・皮膚切開前

サインアウト

- ・手術後

# IVRにおける場面別タイムアウト

サインイン

- 全検査開始前

タイムアウト1

- 各検査開始直前

タイムアウト2

- 患者入室時

サインアウト

- 検査終了後

# サインイン

## ・全検査開始前

参加者：IVR医師 & 看護師 & 放射線技師

内容：予定件数と治療内容確認  
スケジュール調整

（医師より）治療方法・使用薬剤・治療時間など

（看護師より）患者情報・治療中の看護のポイントなど

（技師より）造影剤の種類・撮影条件・使用機器など



IVR医師



看護師



放射線技師

福山雅治さんのラジオ波はアンギオ後CT確認して超音波でS8の病変に行う予定です。

造影剤はイオパミロン370と300を1本ずつ用意します。



福山さん、以前の造影CTで軽度発疹がでる副作用がありました。造影剤使用後は注意して観察します。

全検査開始前のミーティング風景



ちなみに・・・



医療安全標語の唱和も！





# タイムアウト1

・各検査開始直前

参加者: IVR医師 & 看護師 & 放射線技師 & **病棟看護師**

## 病棟看護師からの申し送り



病棟看護師

患者名・治療内容  
同意書現物確認・ICチェック  
バイタルサイン  
アレルギー情報・感染症の有無  
前処置状況  
患者の訴え(キャラクターなど)

福山雅治さん、ラジオ波予定です。以前の造影CT後、軽度発疹が出ました。主治医指示でプレドニン内服しています。

治療に対して痛みの不安の訴えがあります。

治療に対して不安の訴えとかありますか？



# タイムアウト2

## ・患者入室時

参加者: IVR医師 & 看護師 & 放射線技師 & 病棟看護師  
& 患者

### 患者本人確認

患者名確認・バーコード認証  
スタッフ自己紹介  
治療内容確認



IVR医師



看護師



放射線技師

よろしくお願いします！



医師の山本です。

福山雅治です。

名前の確認をします。

福山雅治 50歳  
AG+RFA

バーコード認証

看護師の小山です。  
よろしくお願いします。

今日は足の付け根から管を入れて血管造影をして、ラジオ波という肝臓の治療をする予定です。間違いありませんか。

はい。お願いします。





# サインアウト

・検査終了後

参加者：看護師 & 病棟看護師

病棟看護師へ申し送り



IVR看護師

患者名  
治療内容と経過  
バイタルサイン  
副作用症状の有無  
治療後の注意点  
患者の訴え



病棟看護師



福山雅治さん、血管造影後、S8ヘラ  
ジオ波を行っています。治療中バイ  
タルサイン変動なく経過しています。  
ラジオ波前ペチジン1A使用しました。  
疼痛増強なく経過しています。造影  
剤使用後、今の所発疹ありませんが、  
今後も確認して下さい。

13時までです。



安静時間は何時までですか？

# タイムアウトのメリット

## ●安全な医療が提供できる

- ・間違いに気付くことができる
- ・記憶に残る確認行為ができる
- ・患者参加により安全に医療が提供できる

## ●チーム間で情報を共有できる

- ・コミュニケーションの場の増加となる
- ・共通理解ができる
- ・三位一体の強化となる

## ●個別性のあるIVRができる

- ・部門、職種をこえて多角的な視点で治療戦略が立てられる
- ・患者とのコミュニケーションが取りやすくなる
- ・患者の状態を考慮した細やかなケアができる



# 今後の課題

## ●タイムアウト内容の統一を図る

- ・チェックリスト作成予定
- ・情報収集方法の見直し
- ・患者の積極的な参加の推進

## ●病棟スタッフとの連携を強化する

- ・申し送り内容の充実
- ・情報提供の継続
- ・意見交換会の開催

## ●継続ケアに繋げる

- ・治療前後の患者との関わりの拡大(治療前後訪問や見学導入など)
- ・継続ケアの評価



# 最良のIVRが提供できるよう進化し続けます！



ご清聴ありがとうございました